

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成25年12月1日(日)～16日(月)

山形/モニター世帯数: 496世帯
有効回答数: 454世帯(回答率: 91.5%)
秋田/モニター世帯数: 382世帯
有効回答数: 340世帯(回答率: 89.0%)

消費指数

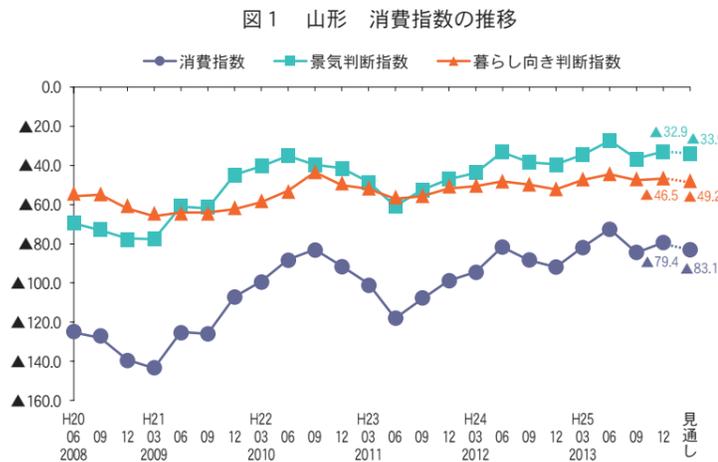
第30回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは一進一退の状況で先行き不透明～

消費指数は▲79.4(前期比5.2ポイント上昇)と、2期ぶりに回復した。内訳は、景気判断指数が▲32.9(前期比4.0ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲46.5(前期比1.2ポイント上昇)と、いずれも2期ぶりの回復となったが、相対的に景気判断指数の上昇が大きい。

今後の見通しは、消費指数が▲83.1(今回調査比3.7ポイント下落)と悪化の見通し。内訳は、景気判断指数が▲33.9、暮らし向き判断指数が▲49.2と、いずれも悪化の見通しとなっている。

以上総括すると、消費マインドは一進一退の状況で先行き不透明と言える。



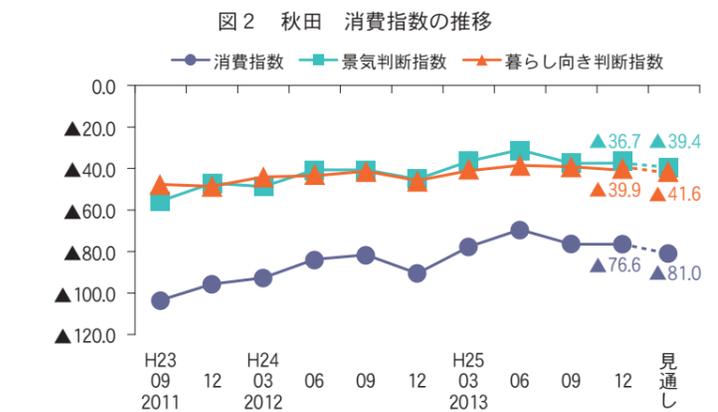
第10回 秋田県内家計の消費動向調査

～足元の消費マインドは横ばい圏内ながら、先行きには不透明感～

消費指数は▲76.6(前期比0.1ポイント上昇)とほぼ横ばいとなった。内訳をみると、景気判断指数は▲36.7(前期比0.8ポイント上昇)と小幅ながら改善した一方、暮らし向き判断指数は▲39.9(前期比0.7ポイント下落)と2期連続で悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲81.0(今回調査比4.4ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲39.4、暮らし向き判断指数が▲41.6といずれも悪化が見込まれている。

以上総括すると、県内景気には明るい兆しがあるものの安定的な世帯収入の増加には至っておらず、物価上昇への警戒感が引き続き強いことから、足元の消費マインドは横ばい圏内ながら、先行きには不透明感がうかがえる。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の指数は▲32.9(前期比4.0ポイント上昇)となり、回復した。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」が▲6.5(前期比1.7ポイント上昇)、「雇用環境」が▲7.0(前期比2.2ポイント上昇)とそれぞれ回復し、「物価(日用品)」は▲19.4(前期比0.1ポイント上昇)と横ばいで、県内景気や雇用環境への認識はやや改良したが、物価への警戒心が依然として強い。今後の見通しは、景気判断指数が▲33.9とやや悪化が見込まれている。

秋田の指数は▲36.7(前期比0.8ポイント上昇)と小幅ながら2期ぶりに改善した。景気判断指数を形成する個別指数では、「景気(県内)」は▲8.0(前期比0.1ポイント上昇)、「雇用環境」は▲9.4(前期比1.4ポイント上昇)とともに改善がみられた一方、「物価(日用品)」は▲19.3(前期比0.7ポイント下落)と4期連続で悪化した。なお、今後の見通しは、景気判断指数が▲39.4と再び悪化に転じる見通し。燃料代・電気料金の値上げに加え、4月の消費税増税を控えて、物価上昇への警戒感さらには強まる見通し。

暮らし向き判断

山形の指数は▲46.5(前期比1.2ポイント上昇)となり、若干回復した。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、「保有資産」が横ばいで、「世帯収入」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」の3つでやや回復となった。今後の見通しは、暮らし向き判断指数が▲49.2と悪化の見通しで、個別指数の中で「お金の使い方」の悪化幅が大きい見込み。

秋田の指数は▲39.9(前期比0.7ポイント下落)と2期連続で悪化した。暮らし向き判断指数を形成する個別指数をみると、「世帯収入」が▲10.1(前期比0.3ポイント上昇)と小幅ながら改善した一方で、その他の項目はすべて悪化した。なお、今後の見通しについては暮らし向き判断指数が▲41.6と、悪化が続く見通しである。個別指数では「世帯収入」と「お金の使い方」で悪化が見込まれている。

家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が439千円と前年同期比で41千円の減少、支出面でも支出計が398千円と前年同期比で48千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は90.7%となり、前年同期比2.3ポイント減となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が414千円となり、前年同期比で1千円の減少と、ほぼ横ばいとなった。支出面では支出合計が366千円となり、前年同期比で10千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は88.4%で、前年同期(90.5%)に比べて2.1ポイント割合が低下している。

